

## 実りの秋さまざまな恵みに感謝



殆どの刈り取りが済んだ圃場を南側から一望

今年のコメントくりは終わりました。梅雨の大雨、夏の猛暑、今年も厳しい自然の試練でした。全国的には、大雨被害のために大きな減収となった米どころのニュースなどがありました。今年の梅雨こそ、安心して過ごせると思っていました。想像以上の降水量で期待していた制水効果は得られませんでした。榎野川本流の浚渫も予算的な問題でしょうか、作業が止まったままに

なっています。

小郡町の歴史を見ると、13世紀頃に、塩水被害で上郷一帯が農産物の大打撃を受けたことが記されています。当時は東大寺などの強大な寺社仏閣の荘園であったことも記されており、税金となる「年貢」の減額を申し込んだという記述があります。

数年前に、農地の一角を深く掘って地層の調査をしたことがありました。表面の農用土は30センチメートル程度でその下には砂や小石の層が何層にも積み重なっていました。それらは榎野川の氾濫で流れてきた上流側の土砂だと思われる。数十年前には農地の

西側に「砂山」のような大地がありました。それらも川の氾濫の影響でそうしたものが出来上がっていたのでしよう。当時の少年・少女はさんざん遊ばせていただきました。こうして安定して農業が営まれ、生活の基盤となっているこの地にも厳しい自然の洗礼が幾度もあったということです。今は辛うじて私たちに都合よく条件が整っているだけです。現在の農地になったのは昭和45年の圃場整備です。それから53年もの時間を経てもなお、多くの暮らしを支えてくれていることに感謝しかありません。

### 三つの年度を使い分け

毎年10月に保全活動のための傷害保険の更新を行います。過去一年間の活動状況をJ A山口県の担当課に提出し、向こう一年間の計画を考慮して保険料の前払いをするわけです。そのために活動の記録が必要になります。今回の活動延べ人数は340人でした。昨年の実績より20人多くなりました。この活動は4月から始まり3月に終わりますが、個人への給与支払いは1月12月、そしてこの保険年度と3つの年度を切り替えながら運営しています。

### 二度目の稲穂が実った



背丈の短い稲穂が実った

9月に刈り取った早生品種コシヒカリの田んぼの刈り株から2番目の穂(ひこばえ)が出ています。たった一か月ほどの期間で、完全に成長したものではないので、食用にはならないとのこと。ですが鳥たちには格好の餌かも知れません。

# 中郷八幡宮の「環境整備」



参道入り口の植え込みを剪定してすっきり

中郷八幡宮の秋の環境整備は参道の入口付近の植木の手入れでした。この参道を上ってこられる人は多くはありますが、参拝者をお迎える玄関口ともいえるところです。

地区総代と総代OBのメンバーが手持ちの道具を持ち寄りますが、中にはプロ顔負けの道具を揃えている人もおられて、作業は捗ります。

参道の入り口に大きな石碑があります。「中郷八幡宮」と大きく彫りこまれています。衆議院議員小澤太郎の書となっています。

裏面には設置の際の関係者の名前も刻まれています。昭和47年の竣工とありますから今から50年以上前となります。地区総代の名前が並んでおり「原田保」の名前がありました。当時の八方原地区の総代だったのです。

この大きな石碑の建設にかかる費用はかなりのものだったと思いますが、総代さんもかなりのご負担をされたのかもしれない。

皆様もお参りの際に確かめてみてください。

誰でも、分からないものには、警戒します。場合によっては攻撃すらしてしまいます。それらは自分を守る正当なものと考えています。しかし、それは正しいことでしょうか。

長島愛生園は小豆島を真正面に見る穏やかな瀬戸内海の島です。しかし、そこで起きていたことは、私たち全員がしっかりと記憶しておく必要があります。「この島を忘れないでほしい」案内の文書に書かれていました。

地区宮総代 原田茂樹

人権擁護委員 原田茂樹

# 忘れてはならない島

国立ハンセン病療養所長島愛生園

ハンセン病というあまり良い印象はお持ちにならないかもしれません。我が国政府はこの病気にかけた人を強制的に隔離する政策を長い間続けてきました。

既に専用の抗生物質があれば完治する病気となってもなかなかこの隔離政策をやめることができませんでした。それを国の怠慢ではないかという意見も少なからずあったと思います。

1996年のらい予防法廃止まで、90年間隔離政策を続けてきましたが、



強制的に連れてこられた患者の理不尽な身体検査があった場所「収容室」

2001年の釜本地方裁判所の判決で国は非を認め謝罪をしました。

10月5日、療養所の一つ岡山県瀬戸内市長島愛生園を訪れました。いま全国には13か所の療養所がありおよそ900人が療養中です。なぜ地元に戻れないのか不思議に思われませんか。そこには私たち自身の持つ大きな問題が問われているのです。

長期間の隔離政策は完治した元患者の居場所を社会からなくしてしまっていました。療養が終っても帰る場所のない人々を保護する場所として、続けるほかなかったのです。

根底にあるのは私たちのハンセン病という病気に対する無理解と差別感情



地図の左側が岡山県瀬戸内市 島に渡る橋が30年前にできた